

### 南京政府の華変聯盟提訴に關する 我々外務省の聲明

(東京十五日) 南京政府の支那華  
変聯盟提訴に關し外務省は午後零  
時半衛報部長談の形式で左の如く  
聲明したる

一日本は非聯盟國で政治問題に就  
ては聯盟と協力しあふ建請を志  
り來つてゐる。支那華變の聯盟  
は提訴された處で聯盟に於ける  
論議に干渉すべき立場にない  
二支那政府のステートメント及び提  
訴文は未だ全文を入手しないの  
ら今茲に正確な意見を表示する  
事は差控へるの今迄判明せる處  
だけと謹分

#### 事實を正す

日本は認  
聯盟の東亞の華變を明かに認識  
せず。支那の一方的文書を基礎  
にして日支問題を介入する如き  
は却て問題を悪化し聯盟の初期  
に及する結果を招来するのみ  
る事既に滿州華變によつて充  
分立証された如くである。  
支那は例へば非聯盟國に對する  
日本軍の攻撃を云々してゐるが  
日本軍が非聯盟國を目標に攻撃  
を加へた如き事は絶対に無いし  
今後とも亦有り得ない。支那軍  
もは九江方面の外に退去を要

#### 傳租界

飛行機による空襲の  
如き更に其後に於ける「パイ」号  
爆撃の如き外國人非聯盟國を攻  
撃して多数死傷者を出した事は  
中述べる處とあり。教育文化機  
關は攻撃の目的物から國際法上  
除外されてゐるの如く支那軍の  
之等を占據し

#### 敵艦の基點

とはした場合  
に於ては國際法  
上當然の不可侵性を喪失する  
に至るは云ふ迄とあり。日本は  
又支那の政治機構を破壊し支那  
の統一を妨害せんとするものと  
認勝してゐるが之は日本の真意  
を解せざる華變しきとのである。  
日本は世界の平和機構確立の前  
提として支那の統一を希望する  
とのに於ては此の統一が

#### 正しい力

により成就するべ  
きとのであるとの  
信念を有するとのである。  
三、今華變に對する帝國政府の方  
針は支那の反復を求むるのみ  
排日政策を放棄せしめ日支の國

交を根本的に調整せんとするにあ  
る。帝國政府が現地解決  
事件不拡大 方針に基づき  
時局收拾に努力  
の努力を盡したる事は世界等しく  
承認する處である。然るに南京政  
府は誠意を示さず、益々中央軍を  
北支に集注し我方に挑戦し來つた  
と同時に揚子江流域及び不余の地  
に於て

#### 陸境極まる排日

左行つて  
我が在留民  
の平和的活動を妨した。帝國が斯  
くの如き國家に對しその及省を求  
むる行前に出た事は正義人道の倫  
又自衛の爲め當然である。唯日支  
問題に就ては日支兩國間に於ての  
現実に即した最と公正なる解決  
方法が見出されるとの確信する

#### 寺内、松井、西大將各々 北支上海で我軍を指揮

(東京十五日) 陸軍省発表によれば  
は寺内、西大將は北支派遣軍司令  
官に松井、西大將は上海派遣軍司  
令官に補われ現地に於て指揮を執  
りつゝある

#### 米政府、日支に對する 武器輸送を禁止

(ワシントン十四日) 米國政府は十  
四日閣議の結果日支兩國政府に對  
し武器輸送禁止の旨を發表したが、一  
般民間の武器輸送は自己の危険に  
於て行ふ場合はこの限りに非ず、  
尙大統領は右禁止が中立法の発動  
に非ざる旨を聲明した

#### 支那沿岸航行應斷により 國民政府の破局は必至

(上海十四日) 支那沿岸航行應斷  
と斷絶により國民政府財政收入の  
八割を占める関稅機運稅は殆ん  
ど消滅し支那の戰爭持続能力著し  
く減退。國民政府と唇齒關係の關係に  
ある浙江財閥の支援如何が注目さ  
れてゐるが、浙江財閥の現状と所  
有財産の大部分は兵艦にあり、殊  
うは政府公債に注ぎこまれた証券  
投資のみとありたので、國民政府  
財政の破局は必至と見られる

#### 会葬御礼

長男精雄、病氣を病氣の延、  
石無効去る十三日午前十一時  
死亡致し翌十四日午後二時半  
自宅出棺、同日午後九時カ  
墓地に埋葬仕、同日知照に  
謹告仕

父 久松純雄  
母 イト  
親戚 黒川 頼助  
竹内 武義  
友人 加藤 吉隆  
有永 武二

#### 書記兼配達人を求む

京附、月給百圓拾五、詳細は  
深沢同業組合幹事高田へ  
パンパ行二四三〇  
リ、七三、三五六〇

日支華軍皇軍慰問会の  
締切は九月廿日です!!!  
在亞日本人会婦人部

### ソ聯の我が二領事館閉鎖要求

#### 我政府再三の反省督促にも不拘

#### 遂に職務執行不認を通告し来る

(モスコイ十三日) ソヴェート政府は自國が日本に六つの領事館を有するに對し日本がソヴェートに八つを有するとの理由で、八月廿六日モスコイ大使館を通じてオデッサ及びノボシビルスクの帝國領事館の閉鎖を要求し来たが帝國政府がこれに拒絶したため、右帝國領事館に對するソヴェート政府の公認を取消すに決し十三日の旨發表した。

### 六対八が何故悪い

#### 帝國政府の主張

(東京十四日) 在ソ聯帝國領事館二箇閉鎖問題に關し外務省は十四日午後五時如く發表した。  
「日ソ兩國の領事館は大正十四年モスコイに於る取定めに依り双方九箇所を最大限度とし開鎖し得ること、亦日ソ兩國とも八箇所の領事館を設置した。然るにソ聯政府は其後長崎、東京の總領事館を奪取すること、亦つた、め彼我領事館が不均等と云つたと云ふ理由で、去る五月中旬以來ソ聯側はオデッサ及びノボシビルスクの帝國領事館の閉鎖を求めて来たが、ソ聯政府が任意にその領事館を閉鎖しても我々が之に應じて同数だけ閉鎖しおければならぬ理由は全然無い、ソ聯側はオデッサ及びノボシビルスクの帝國領事館を閉鎖するも、我々はこれに應じて閉鎖しおればならぬのである」

### 支那を泣付きの一手でゆく

#### 聯盟に日支問題を正式提訴す

(東京十四日) 南京政府は十三日午前國際聯盟事務總長に正式に日支問題を提訴した。右通告は既に予想されてゐたが、これに余り衝激を與へず、シエネーウの空気が冷静である。

### 日紛争討議の聯盟會議に

#### 米政府は無関心態度堅持

(ワシントン十三日) 支那が日支紛争を大きく扱はれてゐるが、米國官

### 伊太利で建造の新鋭艦を揃へ

#### 廣東海軍も戰艦準備に入る

(香港十四日) 最近伊太利で建造した廣東海軍の最新鋭砲艦二隻と、珠江の封鎖警備に當つてゐる。水雷艇五隻は黃埔から虎口砲台に下航し、下り戰艦準備を整へてゐるが、我海軍も右に備

### 虎門砲台目標に

#### 我軍艦突如香砲撃

(香港十四日) 十四日午前五時我軍艦の隻は突如虎門砲台に向け一斉に砲門を開き一時同時に四十字砲火を浴せかけ、敵は多大の損害を蒙り、午後六時他々引揚げた。

### 滿洲國承認

#### 五周年記念日

(東京十四日) 十五日の滿洲國承認五周年記念日に、日清中央協會、清洲移住協會、日清實業協會、東京市主催の下に記念講演会を開催することになつた。

### 支那の國聯提訴を

#### 陸軍当局は一笑に附す

(東京十四日) 支那側の日支紛争に關する國際聯盟への提訴に付き、陸軍當局は支那側の常套的手段ありとして一笑に附してゐるが、内容は全く虚構の事實を羅列して提訴に真実を矯曲したものであると見てゐる。即ち之は既に滿洲事變當時支那側が於ておしたところであつて今更ら驚くに當らぬ、而かも南口攻撃の際日本軍が毒瓦斯を使用したとか、北平に於て外國宣教師を日本軍が拉致したとか、非戦開戦は無差別攻撃を行つたとか云ふかか如きは全く自らの爲した所

### 天皇陛下より

#### ヒットラー宰相へ御禮電

(東京十四日) 天皇陛下には此度秩父宮殿下御遠征御訪問の際、同國より好意を受けさせられたるに就き、ヒットラー宰相に對し十四日御禮電を御送あらせられた。

臨時休業中だった大阪三島棉花取引所は十五日から立会を再開



### 偉なる哉！日本 亞國人が教壇から 学生を前に親日講演

武市大学附属高等学校教授アルフレッド・オネート氏は去る九日同校講堂に於て学生一同を前に「日本の政治、経済的膨脹」と題する一場の親日講演を試みた。オネート教授は予め用意された極東地圖を指示しながら先づ極東の一帝國日本は如何にして今日

の偉大なる國家と成るに至つたかを述べ、更に政治的経済的に膨脹する所なき日本現狀を詳細に説明、最後は學生

### 花卉同業組合から ラブラタの平和園に寄贈

世界各國の園花を集めてフスト大統領臨場の下は昨年開園されたラブラタ市の、業組合より五株の日本櫻苗木が平和園には日本園花として菊が植育されてゐるが、日本といへば因に右櫻苗木は實業九年が丹誠

### 伏見宮妃殿下を始め奉り 各妃殿下赤十字社に御成り 御手づから恤兵品御製作

(東京十四日) 日本赤十字社篤志者護婦人会では予て季變の勇士に贈る繻帯、病衣、消毒品等の製作恤兵品製作業を行つてゐるが、畏くも同總裁伏見宮妃殿下は作業御奨励の思召しから十三日、梨木宮、閑院若宮、伏見若宮、李王、李健公、李鋼公

に育てたものを同氏の好意により先づ組合に寄贈したもので、昨十五日平和園管理事務所ラブラタ市公園課へ送附された。

### コリエンテス日会の 第七回定期総会

コリエンテス日本人会では来る十九日午後三時より日会会事務所津田氏宅に於て第七回定期総会を開催、同時に新役員選挙を行ふこととなつた。選挙委員長は同会

### 藤原義江氏の独唱会

本月廿四日入港予定のアリゾナ九で着座する我等のテナリ藤原義江氏の独唱会は、武市オデオン劇場に於て十月一日(金)、五日(火)、八日(金)、及び十二日(金)の四回に亘り開演されることと決定した。尚ほ同氏はその間二日間だけモンテビデオ市でも独唱会を開く筈。

### 各國情緒を満喫出来る 「國際バザー」

既報十六日エリ向ふ三日間は且つて市内サルミエント街五八の女子基督教青年會館で催される國際バザーは毎日午後三時から開場、日本、亞國、独乙、支那、北米、英國、ハシカリー、メキシコ、パラグアイ、瑞西

トルコの十一ヶ國が思ひのくり売店を設け、又方余共は各國をめぐり趣向をこらし一日は午後六時よりオニオニ日は午後五時より開演される。

### 日庭のアメリカーナメント

日本テニス俱樂部では来る十九日(日)午前九時よりアメリカーナメントを挙行するが、当日はラブレニッサーの空真狂が来て一同を鼓舞することとなつてゐる。因に金賞はニベロ、参加希望者は十八日迄に種場主將の許へ申込み度と

### 死亡

(ネラル・オルス街カフェー「ガマ」共營者久松純雄氏) 今息痛症(心)君は病氣中このころ兼石効悪く去る十五日午前十一時死亡。翌十四日午後四時ケヤカリタ墓地に埋葬の儀を行つた。

### ぶなの丸帰国船客

本十六日午後四時出帆予定の商船ぶなの丸が、いれす丸を左記諸氏が帰国される。  
長谷川善次郎、大城信光、新垣重助、仲村謙三、安斎武治、仲兼久、高木外次官補、本省の帰朝命令により本月下旬出帆の予定、▲松山深次郎氏(パラナ市カプエーハボン主) 近々帰国の旨。

### 支那戰車の中に ズロースがあつた 我部隊長曰く「吾等が」

戦火の下に死の町と化してゐた上海も陸軍新鋭部隊の上陸で漸く蘇り行き交ふ邦人居留民の顔にも久し振りに明るさが見え始めた八月廿五日朝、我々の部隊は回復した敵の精銳を誇るタンクを虹ロマーケツト前に牽引して来たので居留邦人達はタンクを取巻き乍ら方歳を叫び龍城十一日間の憂うつを一時は吹き飛ばしてつた。回復されたタンクは未開製で極めて精巧なものであつた。タンクの内には機銃手指揮小銃拳銃等もあつたが、それにもまして大口径の水筒、女の字號化機銃、女靴、ウチスキーが所狭しと散らばり我陸軍隊員を両公衆然とさせ、指揮官の口を塞いだ。

ALMACEN NISHISAKA  
西坂實太商店  
市内アウストラリア街二〇二  
市二二(ウチスキー)二九一五  
(値銀勉強配達迅速)







JAPON SIGUE SIENDO SIEMPRE EL MISMO:

## LEALTAD ANTE TODO

Ante un hecho grave que, contrariando su voluntad, viene a perturbar la situación nacional, el gobierno y el pueblo del Japón se muestran perfectamente unidos por el lazo tradicional para hacer frente a la agresión externa, y se alza orgulloso el Imperio del Sol Naciente que tiene la conciencia de la responsabilidad para estabilizar la paz en el Asia Oriental, base de su tranquilidad y bienestar, que contribuirá al mejoramiento de las condiciones generales de la humanidad.

La semana del gran parlamento, sería el título que merecería la sesión extraordinaria a que fué convocada la Dieta Imperial del Japón, la que no sólo estuvo a la altura de su cometido, sino que comprobó ser la digna Asamblea de una gran nación bien organizada. Con toda corrección, en una atmósfera plena de solemnidad y preocupación grave, el Emperador, con sus ministros del gabinete, tuvieron la oportunidad de abrirse mutuamente sus corazones con los representantes del pueblo, abrazándose, por decirlo así, en el seno del templo constitucional, con el afecto y devoción por la patria que caracteriza a la nación nipona, que no ha sido alterada con la evolución moderna, uniéndose todos incondicionalmente por el Emperador y para la patria sagrada.

Este acto hermoso de la jornada de cinco días del “Teikoku Gikai” del mes de setiembre de 1937 ha de quedar marcado en la historia por su significado sublime. Japón que adoptó el régimen constitucional de gobierno, sigue observando con todo rigor y buena fé el sistema que supo modelar a su idiosincracia, observando las leyes y respetando los derechos constitucionales de todos. El parlamento japonés ha hecho honor al nuevo palacio recientemente inaugurado, demostrando a la faz del mundo que el pueblo nipón ha realizado un aprendizaje perfecto del mecanismo parlamentario en un corto espacio de medio siglo, lo que Europa necesitó cientos de años.

El presupuesto suplementario de 2.400 millones de yens fué aprobado en 48 horas en ambas Cámaras, demostrando que la capacidad financiera del Imperio no es lo que suponen muchos de los críticos extranjeros que conocen mal la situación real del Japón. Después de los debates de las Cámaras, reunido lo más representativo de los hombres de finanzas del país, declararon unánimemente que el Japón está en condición de sostenerse, sin ayuda externa, para hacer frente a cualquier emergencia.

Es realmente doloroso verse obligado a luchar con las armas con los vecinos con quienes debemos marchar en concordia y en armonía, pero la ignorancia o la mala fé de éstos deben ser corregidas a fin de llenar la misión impuesta por el Japón de salvaguardar la paz del Oriente.

Con las provisiones tomadas por las resoluciones del parlamento, que dió al gobierno los poderes extraordinarios para esta emergencia, hay lugar a cierto optimismo en el sentido de que, iniciada la acción punitiva contra el ejército y el elemento perturbador de China, que no va dirigida

al pueblo pacífico y honrado de China, el fin del incidente esté tal vez más cerca de lo que se imagina, no obstante la arenga del príncipe Konoye que recomienda a la nación entera la firmeza y preparación para una lucha larga.

En cuanto a las actividades del ejército y de la marina, deseamos que en esta semana tendremos algunas informaciones importantes. Mientras tanto, los valientes defensores del prestigio y del honor del Imperio, van adelante, sin cesar, cual el sol que nace, hacia su destino señalado: la victoria.

## Expansión económica y política del Japón

Conferencia del Prof. Alfredo Oneto

En el Colegio Nacional de Buenos Aires, perteneciente a la Universidad de Buenos Aires, dió el jueves 9 del corriente una interesante conferencia el profesor de geografía de la citada institución de estudios Sr. Alfredo Oneto, sobre el tema: “Expansión Económica y Política del Japón”.

En presencia del Director del Colegio, Dr. Juan Nielsen, quien hizo la presentación del orador; secretarios de la legación del Japón, señores Hosokawa y Nakamura; agente de la Kokusai Bunka Shinkokai, señor G. Yoshio Shinya, profesores y alumnos de la casa, disertó el señor Oneto con la elocuencia académica reconocida, su estudio bien prolijo, ilustrándola con gráficos y fotografías especialmente preparados por él.

Describió con habilidad la condición económica del Imperio, su situación política y su razón de ser, manifestando en diversos pasajes su admiración por el Japón y los japoneses.

Al terminar, dijo, dirigiéndose a los jóvenes estudiantes que había mucho que aprender del Japón y que la Argentina podía imitar muchas de sus obras en su marcha ascendente en el concierto de las naciones.

## UN RASGO GENEROSO BIEN ARGENTINO

La conocida empresa “CEIAO” que desde hace años está dedicada a la exportación de carnes argentinas al Japón ha ofrecido en calidad de donación el envío de 20 toneladas de carne vacuna argentina al ejército japonés para ser distribuida entre los soldados nipones que actúan en el frente chino.

El ofrecimiento ha sido comunicado por intermedio de la legación japonesa en ésta al gobierno de Tokio y la compañía de vapores, la Osaka Shosen Kaisha, por su parte ha resuelto aceptar ese obsequio argentino hecho al Japón para transportarlo gratuitamente, renunciando a cobrar el flete de 2.600 yens.

Los directores de la firma C.E.I.A.O. han conquistado la gratitud japonesa con su generosa acción, que, por otra parte, es el fiel reflejo del sentimiento del pueblo argentino que siempre ha demostrado y demuestra hoy una grande simpatía por el Japón, que es un hecho reconocido.

Conferencia del Sr. Kei-ichi Yasunaga

## Industria pesquera en el Japón y sus posibilidades en la Argentina

(Continuación)

La misión primordial de la industria pesquera consiste, a mi juicio, en tratar de sacar, en beneficio de la humanidad, el mayor provecho posible de las inagotables fuentes de riqueza que guarda el mar en su seno y en una extensión que ocupa las dos terceras partes de la superficie del Globo. El mar, que desde miles de años, ha venido sustentando tan generosamente a numerosos pueblos costaneros del orbe, nos dará aún con más generosidad todo lo que la humanidad requiere para su subsistencia.

Las posibilidades de la Industria

Pesquera Argentina

Debido a mis deficientes investigaciones sobre la materia y al corto espacio de tiempo de mi actuación en la Argentina, quizás no esté aún calificado para discutir las posibilidades que nos ofrece la Industria Pesquera Argentina. No obstante, permitidme exponeros mis opiniones particulares sobre este problema, que si bien no serán acertadas, servirán como base de estudios a los investigadores o industriales argentinos.

A continuación voy a señalar los factores que admiten optimismo en el porvenir de la industria pesquera argentina:


- 1.º La costa argentina, igual que la del Japón, está bañada por dos corrientes oceánicas, fría y cálida, cuya ventaja en la pesca ya mencioné anteriormente.
- 2.º La plataforma submarina de la costa argentina es extensa y adecuada para las operaciones de la pesca. Prácticamente se consideran inservibles los mares cuya profundidad es mayor de 200 metros, por cuanto no sólo resultan sumamente difíciles las tareas en dichos mares, sino porque tampoco no se encuentran peces de valor económico con excepción de cierta especie crustácea. La plataforma continental argentina con menos de 200 metros de profundidad es, como he dicho antes, extensísima, lo que nos hace pensar en grandes posibilidades.
- 3.º El abundante caudal del Río de la Plata transporta considerable cantidad de alimento para los peces. Los ríos Paraná y Uruguay afuentes del mismo abarcan un área de unos cuatro millones de kilómetros cuadrados, corriendo en medios de campos fértiles y bosques frondosos.

(Continuará).

SINTONICE EL PROGRAMA DE LA

### Osaka Shosen Kaisha

todos los miércoles a las 19 horas.

POR  RADIO EXCELSIOR

LAMPARAS “YAMADA” DE CALIDAD



Luz Clara - Terminación Prolija - Selección Especial

USE LAMPARA “YAMADA”

En venta en las buenas casas del ramo

¡Beba buen café!

EL CAFE DE SANTOS “AGUILA” está elaborado con los mejores cafés que se importan del Brasil, tostados y con un 10 olo de azúcar abrigantado. ¡Nada más!

Muchos cafés que por ahí se expenden, ¿podrían afirmar otro tanto?

Deduzca Vd. y prefiera el

### CAFE DE SANTOS “AGUILA”

ES UN PRODUCTO SAINT.



**EL PRINCIPE CHICHIBU VISITARA ALEMANIA**

S. A. I. el Príncipe Chichibu que se encuentra en Suiza por razones de salud, habría resuelto hacer una visita a Alemania que aún no conoce, antes de volver a Inglaterra, desde donde regresará al Japón juntamente con S. A. I. la Princesa Chichibu.

**ITALIA CONFIA AL JAPON LA CUSTODIA DE SUS SUBDITOS EN CHINA**

El embajador de Italia en Tokio, señor Auriti, durante su reciente visita al vice-ministro de relaciones exteriores del Japón, señor Horiuchi, encomendó en nombre de su gobierno la custodia de los residentes italianos en China a las autoridades japonesas.

**GRANDES LLUVIAS E INUNDACIONES EN NORTE CHINO**

Informaciones de la agencia Domei fechadas en Tientsin hacen saber que las grandes lluvias en la región del Norte Chino han cesado, pero que sigue lloviendo en la provincia de Honan desde hace más de un mes, hallándose desbordados el Río Amarillo y sus afluentes. Toda la región está bajo el agua y presenta un panorama desolador: casas inundadas, cosechas perdidas y las comunicaciones interrumpidas.

Lo que antecede explica con elocuencia las dificultades que tienen los ejércitos expedicionarios para operar en esa región.

**LAS RELACIONES POLACO - JAPONESAS**

La legación del Japón en Polonia y la de ésta en Tokio, han sido elevadas a la categoría de embajadas, siendo promovidos al rango de embajador los actuales ministros plenipotenciarios de ambos países.

**SERVICIO DE CABLEGRAMAS ENTRE NAGASAKI Y SHANGHAI**

La línea Nagasaki-Shanghai del cable que había estado interrumpido desde el 13 de agosto, por haber sido cortada la línea por los chinos, ha sido compuesta y librado al servicio de nuevo por los japoneses.

**LLEGO EL CORONEL OKADA DEL EJERCITO JAPONES EN MISION ESPECIAL**

Se encuentra en ésta el coronel Chikahide Okada del ejército japonés, especialmente enviado a la Argentina con la misión de realizar estudios vinculados con la caballería argentina.

**VIAJEROS CONOCIDOS**

Parte en breve para el Japón el señor Ayao Hanafusa, representante de la casa Mitsubishi en ésta, siendo reemplazado por el señor Takeo Nishizawa que acaba de llegar de Nueva York. Regresa también al Japón el señor T. Suzuki, agente de la casa Kato y Cia. de Kobe, cargo que deja al señor Chuichi Yuasa de la misma firma ya en Buenos Aires.

**RESIDENTES NIPONES EN LA ARGENTINA Y LOS SOLDADOS QUE PELEAN EN CHINA**

Entre los residentes nipones en la Argentina, que alcanzan a unos seis mil, se ha recolectado un fondo destinado para obsequiar a los soldados nipones que luchan por la patria en el norte de China, y ya se han enviado al ministerio de Guerra de Tokio dos remesas que en conjunto suman 15.000 Yen.

Por otra parte, las damas japonesas se hallan ocupadas en preparar "Bolsas con regalos para los soldados", siendo generosamente respondido el llamamiento lanzado por la Comisión de la misma.

Se han presentado varias señoritas argentinas quienes han manifestado el deseo de participar en la donación de las bolsas destinadas a los valientes soldados japoneses que ellas admiran, siendo aceptadas por la Comisión con profundo agradecimiento.

**LA OLIMPIADA DE 1940**

Ha sido desmentido el rumor acerca de la cancelación de la Olimpiada de Tokio a realizarse en el año 1940, informándose que, a pesar de la situación anormal del Oriente, la celebración del atletismo olímpico fijado para 1940 no será anulada.

Agrega la noticia de que la ciudad de Tokio estaría dispuesta a costear todos los gastos, si fuera necesario, en caso de que el gobierno creyera prudente economizar por las circunstancias.

<p><b>"NAMBEI"</b> Compañía de Importación y Exportación Sociedad Anónima Telegramas "NAMBEI" U. T. (33) 3001, 3002, 3003, 3004, 3008 y 3571 T. T. Buenos Aires, 904 RMIENTO 470 BUENOS AIRES</p>	<p><b>A. HANAFUSA</b> Representante de Mitsubishi Shoji Kaisha, Ltda. FLORIDA 229 U. T. 33-5469</p>	<p><b>F. KANEMATSU y Cia. Ltda.</b> Importaciones y Exportaciones JUJUY 136 - U. T. 45, Loria 5823 y 5824</p>	<p><b>S. TSUJI</b> Importador BALCARCE 882 - U. T. 33 Avda. 5744</p>
<p><b>N. IKEDA</b> The National City Bank of New York BARTOLOME MITRE 502 U. T. Avenida 33 - 4031</p>	<p><b>S. YAMADA y Cia.</b> Importadores MORENO 2039 U. T. Cuyo, 47-4354 y 4406</p>	<p><b>PIDA SIEMPRE</b> <b>Marca KANEBO</b> PARA TEJIDOS Avda. ROQUE SAENZ PEÑA 989 U. T. 35-7632 8.º piso Oficina D</p>	<p><b>LA MAISON SATUMA</b> K. YOKOHAMA Objetos de Arte y Antigüedades ESMERALDA 1080 - U. T. 31 - 8601 Sucursal: SUIPACHA 865 - U. T. 31-4837</p>
<p><b>H. KATO</b> Unica Fábrica Japonesa de Tejidos de Sedas y Gran Instalación de Tintorería HERRERA 2097 y 2111 - U. T. 21-1841</p>	<p><b>IIDA y Cia. Ltda.</b> (Takashimaya) Importadores y Exportadores RODRIGUEZ PEÑA 162 U. T. Mayo 38-3419</p>	<p><b>M. OMURA</b> Importador de artículos generales del Japón SAN MARTIN 235 - U. T. 33-2683</p>	<p><b>Sastrería JAPONESA</b> Fundada en el año 1916 de S. KATAYAMA PIEDRAS 572 - U. T. 33-5452</p>
<p><b>SADAO HATTORI</b> IMPORTADOR Especialidad en artículos de Cepillería LINIERS 649 - U. T. 45, Loria 321P</p>	<p><b>R. HARA y Cia.</b> Importadores BELGRANO 1470 U. T. Mayo 38-2438 y 9437</p>	<p><b>S. ANDO y Cia.</b> Importadores DEFENSA 532-40 U. T. 33 (Av.) 2296</p>	<p><b>GUIA JAPONESA</b> LEGACION DEL JAPON: Reconquista 336. - U. T. 31-3193.</p>
<p><b>KATSUDA y Cia.</b> Importadores MEXICO 1474 - U. T. 38, Mayo 2313</p>	<p><b>CARLOS C. ISHIY</b> Importador y Exportador Bmé. MITRE 341 - U. T. 33 Avda. 9782</p>	<p><b>JIRO HONDA y Hno.</b> Importadores de Artículos Generales del Japón MORENO 1320 - U. T. 38 Mayo 2718</p>	<p>CONSULADO DEL JAPON: Reconquista 336. U. T. 31-3193. CAMARA DE COMERCIO JAPONESA: Avenida Roque Sáenz Peña 618. - U. T. 33-1452.</p>
<p><b>B. TAKINAMI</b> Importador Casa Establecida en el año 1905 VICTORIA 733 - U. T. Mayo 38-3413</p>	<p><b>S. YOKOBORI</b> Representante de FUJISAKI y Cia. CANGALLO 499 3er. Piso Escr. N.º 21-22 - U. T. 33-9390</p>	<p><b>Casa "YAMANAKA"</b> Oriental Fine Art Curious VIAMONTE 824 - U. T. 31 7846</p>	<p>INSTITUTO CULTURAL ARGENTINO-JAPONES: Via norte 1435. ASOCIACION JAPONESA: Patagones 840. - U. T. 23-4993.</p>
<p><b>I. HIROTA</b> Importador de artículos generales del Japón CHILE 1029 - U. T. 37 (Riv.) 1051</p>	<p><b>TARU MURAI</b> Unica Casa Introdutora de Porcelana "NORITAKE" MAIPU 463 - U. T. Retiro 31-3189</p>	<p><b>K. YASUNAGA</b> Compañía Argentina, Comercial e Industrial de Pesquería DEFENSA 1597 - U. T. 33-7769</p>	<p>COMPANIA DE VAPORES O. S. K.: ROQUE S. PEÑA 616 - 2.º Piso U. T. 33-1051 - 1052 - 1053 y 3565</p>